

つながり・ぬくもりプロジェクト

2011.3.11

Switch On.



陸前高田 2011.4.2





南三陸 4.20



ソーラーネットでの支援

手作り太陽電池で、とにかく明かりを

3.26～4.5



いざ出陣! 天童市



陸前高田 六ヶ浦会館 支援の一号 2011.4.3



南三陸 S氏避難所



明かりは嬉しい。

つながり・ぬくもりプロジェクト

出来るだけ種をまく

3つのエネルギー支援をみんなの手で

太陽光による
エネルギー支援



太陽熱温水器による
エネルギー支援



バイオマスによる
エネルギー支援



「つながり・ぬくもりプロジェクト」

個人

グループ・団体

企業

ご寄付

まずは緊急支援

2011年4月～9月頃まで



南三陸・津の宮荘
自然エネルギー事業協同組合レクスタ



システム 130Ah × 2 600W出力

避難所は400Wで

- 設備:太陽電池400W
- バッテリー:240Ah
- インバーター出力:600W
- コントローラー:24V-15A(MPPTシステム)
- 平均利用可能電力:約1000wh/日

陸前高田・消防団



小さな八百屋さん



様々なドラマ.....



ホテルマリナ(石巻)



人作り



福島避難組チ一ム

漁師さんへの応援



太陽光パネル 待望の光

津波で電気が途絶えていた宮城県石巻市小浜の県漁協表浜支所に3日夕、震災後初めて明かりがともった。環境NPOや市民団体が屋上に太陽光発電パネルを設置した＝写真、溝脇正撮影。

小浜では津波で多くの家が流され、支所の組合員だけで十数人が亡くなった。がれきの撤去など地域で

支援活動をしていたボランティアが、太陽光発電パネルを無償で設置しているNPOと連携。3日、6枚のパネルが設置された。

支所は6月中旬の漁業再開を目指している。支所の土方規生さん(35)は「これで夜まで仕事ができる。気が沈んでいた住民は前向きになっています」と話した。(小川直樹)

朝日新聞6/4

動き始めた表浜漁協(宮城県石巻)には、もっと大きいシステムが必要になっています。



名取市高館小学校(4/18)
ぐるっ都地球温暖化対策地域協議会



薪ボイラー(8トン/日)
岩手・木質バイオマス研究会



ちょっと一風呂(大槌町・吉里吉里小学校)

福島の例

原発を抱えて



どこの別荘?



牧場



11マイクロ・シーベルト



牛の水場



太陽電池を活用した小川郷駅のイルミネーション



南相馬市・ディサホート・ピーナッツ

復興へ

2011.9月～



陸前高田・米崎保育園9.8kw



岩手県大槌町・5kw



住田町仮設住宅(イメージ)



岩手県山田町



宮城県石巻



色とりどりの浮き 2011の暮れ



宮城県尾崎の港





尾崎地区・造船所



石巻・大川小学校

ひと

太陽光のクリスマスツリーを大川小に贈った

にいぬま たかゆき
新沼 暁之 さん(37)



子どもたちの詩や願いごとがぶらさがったツリーは、壊れたままの校舎の入り口でピカピカ光っている。「ずっと忘れないよ。だから、さよならは言わないよ」「もう一度いっしょに遊びたい」

震災で児童・教職員84人が死亡・行方不明になった宮城県石巻市の大川小学校には、まだ電源がない。校門跡に12枚の太陽光パネルを取り付けた。隣の慰霊碑を照らす2本の街灯も太陽光が光源だ。

お盆前のこと。支援現場の帰り道、花に埋もれた碑は闇に沈んでいた。「じくになった子どもたちが迷っちゃもう」。遺族らが日暮れ後も手を合わすようになった。ツリーは二つ目のプレゼントだ。

太陽光発電を知ったのは震災の翌月。被災地に太陽光の明かりをつける東京のNPOが、現地つなぎ役を求めている。避難所にパネルを並べて配線しなきゃならなかった。「すげえ。さえあれば発電なんて怖くない。見よう見まねで工事を覚えよう。手県大船渡市の自宅を起点に古市から茨城県まで約1500キロ取り付けた。発電設備はソーロントニアなど企業の寄付。高校を中退。首都圏の飲食店に働きだした。10年前に帰って始めた居酒屋は震災の夜道を携帯電話で足元を照らして帰る女子高生を見かけた。「三陸の未来はソーラーが輝くんだ」

文・写真 菅沼

クリスマスツリー 2012.12.22 朝日

いま、必要なものは何か？





復興へ

自分たちで、暮らしを作る

今、必要なもの

自分たちの手に、暮らしを取り戻すこと。